

### 会長としての2年間を省みて

日本電気(株) 顧問 水野 幸男



会長に就任以来この2年間、私を支えて頂いた学会の理事、事務局、会員の皆様方に感謝と御礼を申し上げます。

まず経済のグローバル化時代のORを考えるため、戦後のOR誕生の地とも言うべきMITを訪れ、旧友のスローンスクールのロバード教授に久しぶりに会いました。彼は、ORは今後経済競争の分野、特に金融工学の分野で必要とされ、発展すると強く主張しておりました。私もかねがねこの分野へのORの進展が必要であると思い、今野先生を始め関係の先生方にOR学会による金融工学のセミナー、研究会の発足充実をお願い致し、学会誌でも編集委員の御努力により「金融・証券ビジネスとOR」の特集号も発行されました。金融・証券関係の企業及び関係の皆様はORについて一層の関心を持って頂き、多くの方々の学会への参加を期待しております。

私はこれからは各支部の活性化、発展が大変大切であると思います。支部の活性化にとって重要なことは、地方の企業・公共団体が現在抱えている問題を公表し、支部を中心として産学協力のORチームを編成してその問題の解決を計ることだと感じました。事実、支部の中にはこのようにして具体的な成果をあげておられる支部もあります。地方におけるOR研究会・セミナー等を通して問題の公表を促進する「環境」作りも大切であると思います。学会誌の編集も年に何回か支部あるいは支部合同でお願いし、地域の企業・公共団体の方々に執筆して頂くことも問題の公表に繋がるのではないのでしょうか。

これからは、OR学会も他の隣接学会例えば経営工学等と、それぞれが独立性を維持しながら一層の相互協力を進めて行くことが大切であると思います。関係の皆様方の御努力により、経営工学会と合同研究発表会

を実現する運びになりました。北海道支部を中心とするオーストラリアのOR学会との交流活動も、グローバル化時代の今日大変意義深いことであると思います。

昨年北京で開催されましたIFORSのEURO・WORKINGのセッションに出席し、ユーロのOR活動がリアルワールドの問題に重点的に取り組んでいることを知りました。教育・医療・環境・経済等の極めて複雑な問題に挑戦しているのです。我々のOR学会でも学会創立40周年事業の一環として「統合オペレーション研究」プロジェクトが編成され、その活動がスタート致しました。現実世界のオペレーションは複数のプロセスから成る統合されたオペレーションであり、いまだ明確な解法が無い新しい問題であります。「統合オペレーション研究」のプロジェクトでは、このようリアルワールドのOR問題にチャレンジしようとしております。この特別研究プロジェクトの発足に関し梅沢豊先生、中野一夫前理事及びPP委員会の御熱意と御努力に感謝致しております。

昨年、理事会及び関係者の皆様と協議の上学会の財政破綻を防ぐためやむを得ず会費の値上げに踏み切りました。この2年位は何とか破綻せずに過ごすことができると思いますが、今後一層会員の増強を計る必要があると思います。ユーロのOR活動には女性のリーダーが大変活躍されております。日本のOR活動においても人口の半分を占める女性の学会への参加が期待されます。また、次世代のORワーカーの早期の育成も重要な課題であり、若山副会長他の方々による高校生のためのORセミナーの実施は大変意義深い重要な活動であると思います。

最後になりましたが、長谷川新会長他皆様のご活躍を心から祈念申し上げます。